



——— 山口県初!! ———

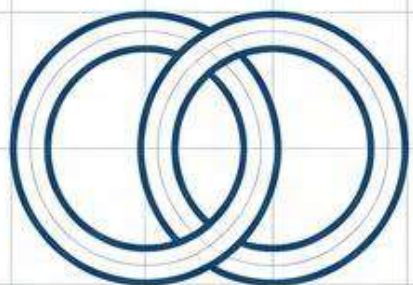
下関市立大学と地域最大級の介護事業者が始動する 「2040 未来介護共創プロジェクト」

AI・データサイエンスを活用し、2040年問題の解決モデルを下関から全国へ

公立大学法人下関市立大学（理事長：三木 潤一 / 学長：韓 昌完）

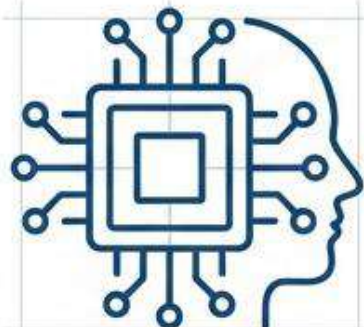
セービンググループ（会長：齊藤 昌昭）

本発表のサマリー



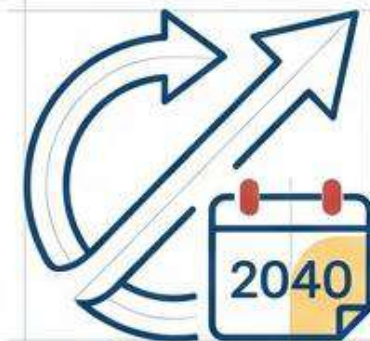
山口県初の 産学包括連携

公立大学法人下関市立大学と、山口県内最大級の介護福祉事業者「セービンググループ」が包括連携協定を締結。学術的知見と現場のスケールを融合。



AI・データサイエンス型 介護DX

介護現場で蓄積されるリアルなデータを、大学の新設3学部（データサイエンス・看護・経済）の知見を用いて解析する実証研究プロジェクト。

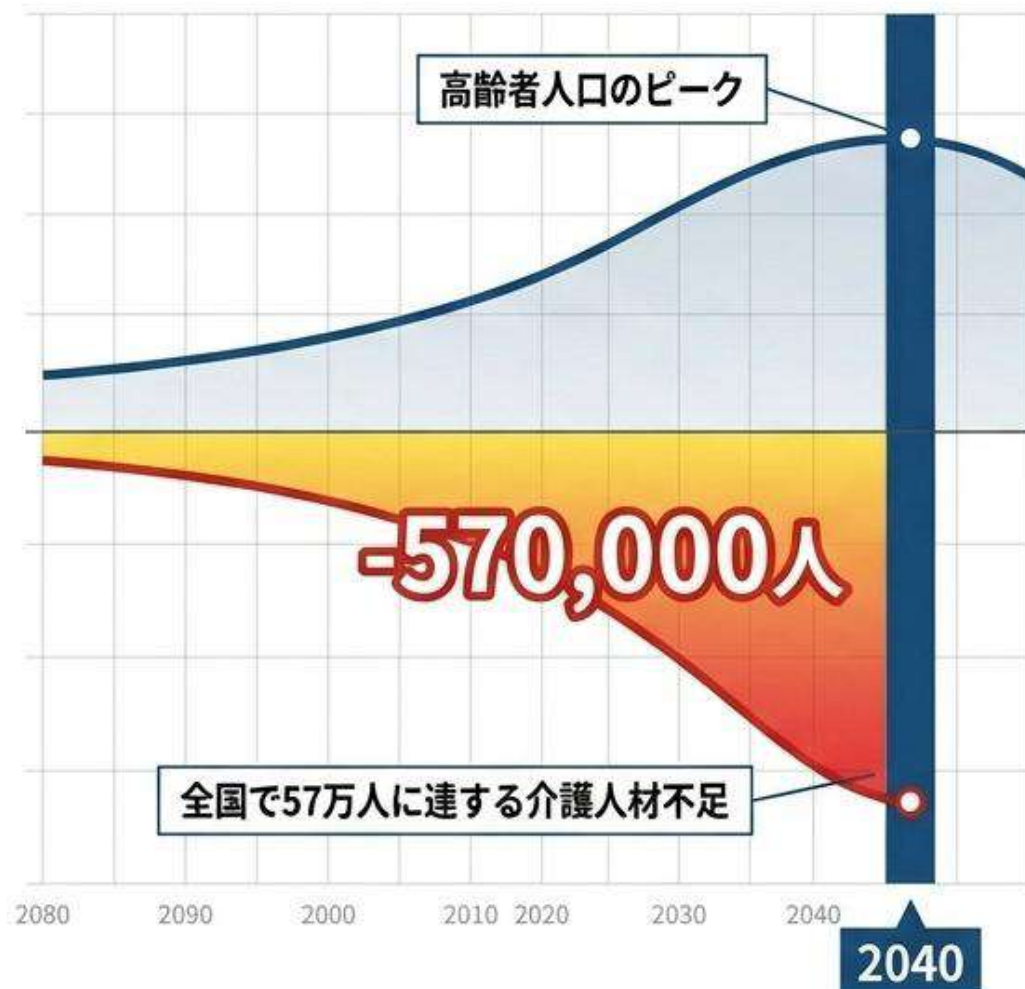


2040年問題の 解決モデル創出

超高齢社会における介護現場の生産性向上と、持続可能な介護サービスの実現。下関から全国へ向けた「2040年の日本モデル」の構築を目指す。

なぜ今、2040年なのか

The Demographic Cliff



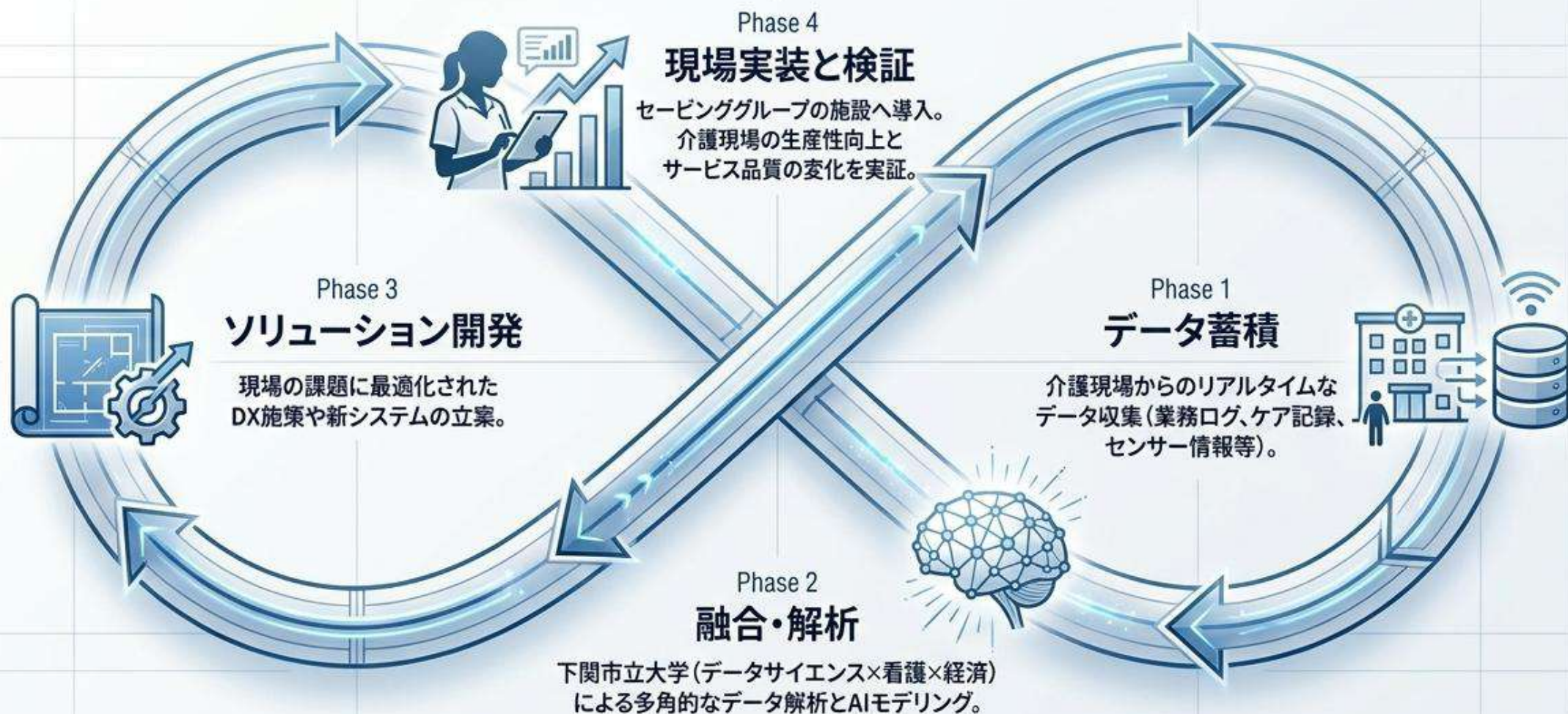
「生産性向上と持続可能な介護サービスの実現」

- 2040年、日本は世界に先駆けて超高齢社会のピークを迎える。
- 全国推計で57万人という絶望的な介護人材不足への直面。
- 現状の延長線上ではない、抜本的な現場改善とシステム変革が不可避。

包括連携の強みとシナジー

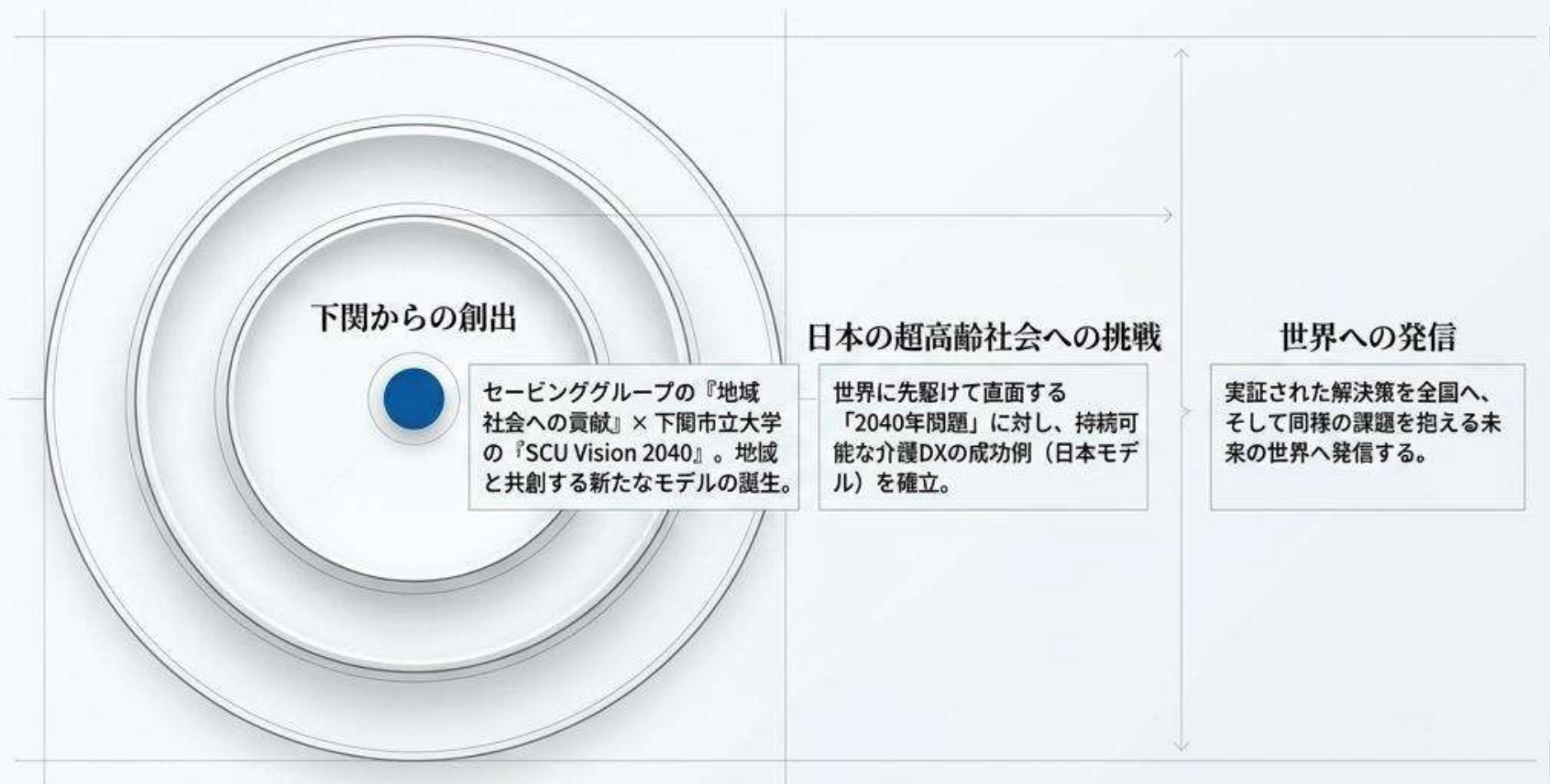


AI・データサイエンス活用型 介護DX実証



単なる産学連携にとどまらない、「実証（テスト）」と「改善（アップデート）」の高速サイクル。

目指すのは「2040年の日本モデル」



「この包括連携は、日本の未来を救うための下関からの挑戦です。」